

★マハタは引きよし、姿よし、食味よしと三拍子そろった好ターゲット

パワフルな引きと抜群の味覚 新年も有望!! 外房のマハタ

外房大原港出船



▲最後の流して2キロ級が連発



▲ヒラメ仕掛けでキャッチ



▲竿はハリ掛かり後の強烈な突進を受け止めるバットパワーが求められる



▲船中最初のマハタは1本バリ仕掛けで上がった
▲若魚は白い縞模様鮮やか
▶1キロ前後がアベレージ



▲タナは底から2〜3メートル。まめなタナ取りが誘いにもなる

マハタに的を絞るなら1本バリがおすすめ

●ヒラメとマハタを併せて狙う乗合船ではハリス6号のヒラメ仕掛けが中心ながら、マハタに的を絞るなら大型に備えてハリス8号以上の1本バリがおすすめです。



▲市販のヒラメ仕掛けを使う場合もハリス7〜8号の大物仕様なら安心、オモリは80号
▶生きイワシはエサにちょうどいい15センチ前後のマイワシが入荷中

▲マハタは大きな口でエサを丸飲みするため1本バリ仕掛けを使う人も多い
▶1本バリ仕掛けはイワシが弱りにくいメリットもある



▲3キロ級のヒラメも上がった

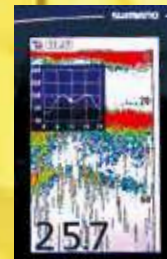
口を頭に全員マハタを確保した。
当地のマハタは春までのロングラン。潮具合など条件がそろえば釣果アップも望めるだろう。
(詳細は50ページ参照)



●当日最大2.5キロ



撮影●本誌編集部



▼当日は大原沖の水深25〜35メートル付近を流した

▲カジメが繋がったポイントには根掛かりに注意

シャープでパワフルな引き、堂々とした体格、万人が認める抜群の味覚を持つマハタは、釣り人なら一度はチャレンジしたいターゲット。
釣り場は関東周辺では南伊豆と房総半島などにあり、近年魚影が増加し注目を集めているのが外房エリア。
当地はヒラメと併せてマハタを狙う乗合船が増えており、取材した大原港・天の清栄丸では釣り人の要望に応えてマハタ専門船も出ず。
釣り場は大東〜岩船沖の水深30〜60メートル前後に無数に点在する根周りや岩礁帯。12月下旬の取材日は、潮が流れず全般にアタリが遠かった。それでも皆さん手を休めず釣り続け、2.5キロ



●外房大原港・天の清栄丸
天野 清樹船長